

3. 修正点_第2部（後半）

ふだんを生きる、じぶんが生きる。知るほど暮らすほど「好き。」が深まる千年都市。

	旧	新（案）
見出し	第2部（後半）： <u>これからの河内長野、10年後に実現したい姿</u>	理念 <u>まちの未来、河内長野の可能性</u>
（1）10年後、私たちはどんな「ふだん」を生活しているのだろうか。		
1	まちが元気、みんなも元気。 深呼吸したくなる <u>ような</u> ゆたかな自然、美しく整備された街並み、充実した教育や子育て環境、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10年後の河内長野は、もっと美しく、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。	まちが元気、みんなも元気。 深呼吸したくなるゆたかな自然、美しく整備された街並み、充実した子育て環境、 <u>教育や福祉</u> 、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10年後の河内長野は、もっと美しく、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。
2	ホテルも、子どもたちも、光ってる。 <u>ゆたかな自然とのふれあい</u> が、 <u>子どもたちの体験もゆたかにしてくれます</u> 。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、川遊び、 <u>地元の食材をふだんに使ったBBQ</u> 、子どもたちが顔を輝かせながらホテルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。	ホテルも、子どもたちも、光ってる。 <u>河内長野には、子どもたちの成長をゆたかに彩る環境があります</u> 。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、 <u>農業体験</u> 、川遊び、 <u>たくさんある公園でかけっこ</u> 、子どもたちが顔を輝かせながらホテルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。
3	揺るがない安全と安心感。 10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と同居して暮らせる毎日が、みんなの誇りになっています。	揺るがない安全と安心感。 10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害への対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と同居して暮らせる <u>健康的な</u> 毎日が、みんなの誇りになっています。
4	人のつながりも、大きな安心に。 地域の人たちも、河内長野の安全・安心を支えるのに、大事な役目を担っています。学校に通う子どもたちのための見守り活動や、防災・防犯活動など、一人ひとりの目配り・心配りが、みんなの安心を育んでいます。人と人のつながりが広がり、深まることで、安心はもっと、大きなものになっています。	変更ありません
5	暮らしの中に、「できる。」がふえる。 <u>知りたいまちの情報にいつでもアクセスできたり</u> 、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり、 <u>AIや新しい技術が暮らしの中に自然に溶け込んで</u> 、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。	暮らしの中に、「できる。」がふえる。 <u>まちの情報をみんなで伝え合ったり</u> 、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり、 <u>新しいテクノロジーと、人と人の支え合いによって</u> 、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。
6	好きなときに、好きなところへ。 自動運転などのテクノロジーや、人と人の助け合いを活かして、マイカーがなくても、免許を返納しても、自分の行きたいところへ出かけることができます。新しい地域モビリティやバス・鉄道、ご近所さんとの乗り合いを組み合わせて、いろんな移動が実現。移動中に生まれる人と人の“ふれあい”も、楽しみのひとつに。	変更ありません

(2) 「自分」が活きるまちって、どんなまちだろう。		
1	<p>みんなが、主役。みんなが、ファン。</p> <p>年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりの個性が活かされて、みんなが好きなこと、得意なことを楽しめるまち。そして、なりたい自分に近づけるまち。いろいろな人がいて、誰もがどこかに「主役」になれる場所を持っていて、それぞれが誰かの「ファン」でもあって、お互いに応援し合っています。</p>	変更ありません
2	<p>支えて、支えられて、活かし合って。</p> <p>誰かがいつも「支えられる側」になるのではなくて、自分の長所や特技・経験を活かして、誰かを「支える側」にもなれるまち。お互いに気兼ねなく頼みごとができたり、周りの大人たちに支えられて成長した子どもが、自分も誰かを支える側になったり、支え合いの循環が広がっています。</p>	変更ありません
3	<p>あたらしい一歩、踏み出し放題。</p> <p>何才になっても、いつでも新しいことにチャレンジできて「このまちでよかった。」と思える場所。新しい一歩を踏み出すとき、「このまちがいい。」と思える場所。周りのみんなも、その一歩を応援してくれるから、やりたいことを次々と実現させることができます。</p>	変更ありません
4	<p>地域がまるごと、学校。</p> <p>学校でたくさんのことを学べて、学校の外でも学べることがいっぱいあるまち。10年後の河内長野では、みんなが先生に。自然も先生、スポーツ選手やアーティスト、地域の大人たちも先生。子どもたち自身も、自分で好奇心や探究心を持って調べたことを誰かに伝えれば、立派な先生に。</p>	<p>地域がまるごと、学校。</p> <p>学校でたくさんのことを学べて、学校の外にも学びがいっぱいあるまち。河内長野の子どもたちは、地域でのさまざまな経験を通して、学力とともにゆたかな心や健やかな体を育てています。知・徳・体の調和がとれた「生きる力」をそなえた子どもたちが、社会で活躍することがまちの希望になっています。</p>
5	<p>学びを、誰かの喜びに。</p> <p>いくつになっても、<u>学び続けられる</u>まち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、<u>身につけた</u>知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。ゆたかな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。</p>	<p>学びを、誰かの喜びに。</p> <p>いくつになっても、<u>多様な学びの場が身近にある</u>まち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。ゆたかな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。</p>
6	<p>住（じゅう）を、もっと自由に。</p> <p>戸建てや団地、マンションでの暮らしも、古民家の活用も、いろいろな住み方、暮らし方を自由に選択できるまち。たとえば、平日はニュータウンで生活し、週末は集落の田畑に出かけたり、空き家をリノベーションして仕事の拠点にしたり、多様な地域の魅力を活かして暮らしの楽しみ方が広がっています。</p>	変更ありません

(3) これから、どんな「好き。」を深めていけるだろう。		
1	<p>まちの顔を、笑顔でいっぱい。 “まちの顔”になる場所がいくつもあって、たくさんの笑顔があふれる場所に。みんなの手で景観を美しくしたり、おいしいお店や楽しいスポットができたり、商店街の新しい活用法にみんなでチャレンジしたり。地元の人、観光客の人たちも、いろんな所でいろんな「好き。」との出会いが生まれています。</p>	変更ありません
2	<p>サクセスフルな、サステナブル。 自然を守るための活動がもっと盛んになり、<u>資源のリサイクル率は府内トップレベルから全国トップレベルに。ゆたかな森林と市民活動をもとに、脱炭素社会の実現をリードするまちとして注目が集まっています。美しい自然や公園、まちの景観を、思い入れをもってみんなで守り、活用することで、一人ひとりのまちへの愛着がさらに深まっています。</u></p>	<p>サクセスフルな、サステナブル。 自然を守る活動がもっと盛んになり、<u>大切な資源が循環し続けるまちに。自然だけでなく、道路や公園などの社会基盤も、自治会活動などのコミュニティも、農業や地場産業も、市役所の安定した運営も、みんなの力で安心して暮らし続けられる環境が整い、持続可能なまちづくりのモデルケースになっています。</u></p>
3	<p>“ここにしかない”時間を求めて。 都心から30分の場所にありながら、自然や文化・歴史を感じられるまち、河内長野。自然と親しむアウトドア体験、ながく大切に守り継がれてきた神社仏閣。ここにしかない時間がゆっくりと流れていて、国内外から多くの人を惹きつける魅力になっています。慌ただしい日々の中で失った時間を取り戻し、ゆたかな時間を蓄えていく。そんな時間の楽しみ方が、ここにはあります。</p>	変更ありません
4	<p>地産地消で、日本一の給食カレーを。 恵まれた自然と<u>新しい</u>農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消の<u>取り組み</u>が進み、河内長野産の<u>おいしい</u>食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜を<u>つかって日本一おいしい給食カレー</u>をつくったり、おいしくて体にもやさしい食文化がまちじゅうに広がっています。</p>	<p>地産地消で、日本一の給食カレーを。 恵まれた自然と農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消が進み、河内長野産の<u>おいしい</u>食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜を<u>つかって“日本一おいしい給食カレー”</u>が話題になるくらい、<u>農業と食育が活発になり、みんなの健康を支えています。</u></p>
5	<p>“推し”と出会えて、育てるうれしさ。 地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、<u>ダンスチームや吹奏楽団</u>、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。</p>	<p>“推し”と出会えて、育てるうれしさ。 地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。</p>
6	<p>「好き。」が集まれば、すごい力に。 河内長野がみんなの「好き。」であふれたまちになって、みんなで見つけて持ち寄った<u>いくつもの</u>魅力が「まちのブランド」になり、広く全国へと伝わっていく。みんなで愛着と誇りを持って、このまちでの暮らしを楽しむことが、そのまま、まちづくりにも活かされていく。そんな未来が、始まろうとしています。</p>	変更ありません